

# 縄文時代後期における海と山の集落

－近くの違いと遠くの類似－



## 1. 神奈川県域の事例（図版 2～ 23）

神奈川県内の後期前葉から中葉（堀之内式～加曾利 B 式）の代表的三つの遺跡（仏向貝塚・稲荷山貝塚・はじめ沢下遺跡）をとおして、近くの違いと遠くの類似について具体例をあげる。そこから、細かな環境に適応した生業のあり方と、遠方との交易や共通した集落形態が見えてくる。

## 2. 関東南部の事例（図版 24～39）

神奈川県域にみられる時期特有の集落形態（住居に隣接した墓）は、神奈川県域のみならず、関東地方南部から長野県域まで広がる特徴である。当然、山と海とで生業は異なるが、なんらかの共通した観念があったと想定される。その観念とは、現在と違う死者との関係にあるのではないだろうか。

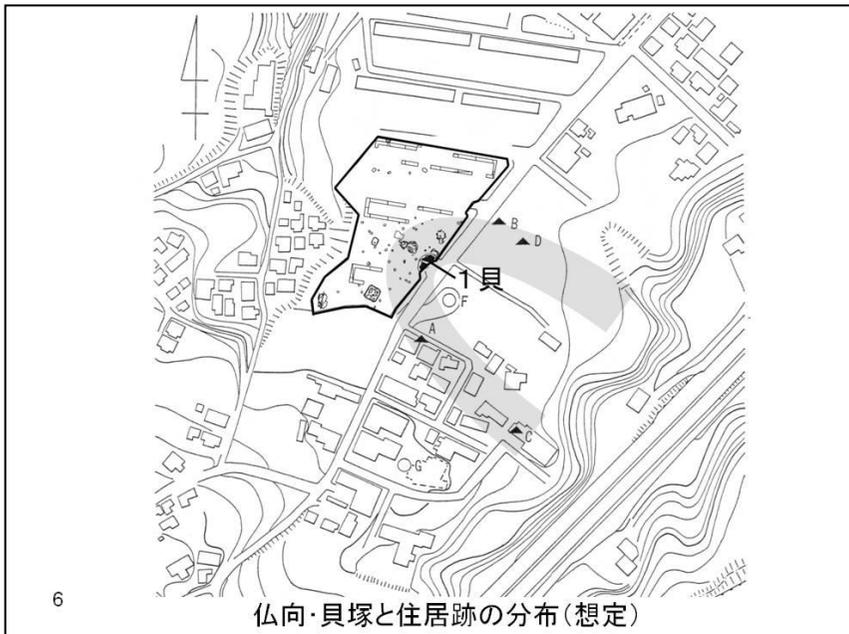




仏向・1号貝塚断面



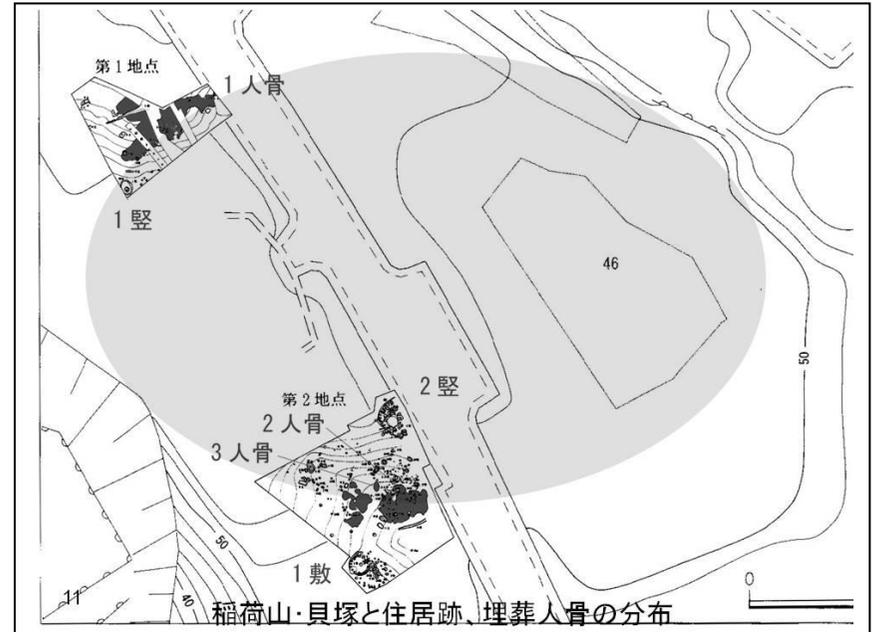
仏向・1号貝塚と周辺の住居跡

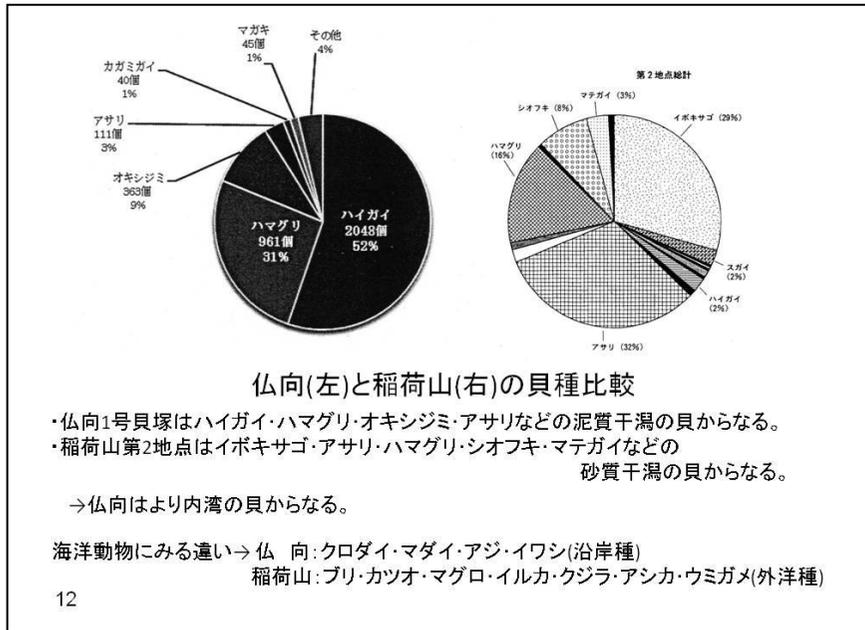


仏向・貝塚と住居跡の分布(想定)



稻荷山(イナリヤマ)・貝層(第1地点)





## 仏向貝塚と稲荷山貝塚の類似点と相違点

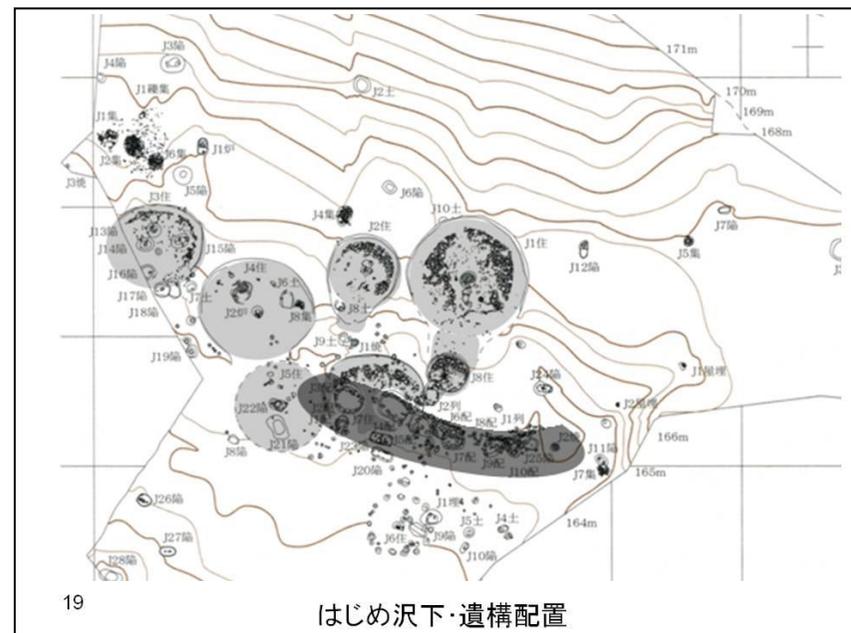
**類似点**

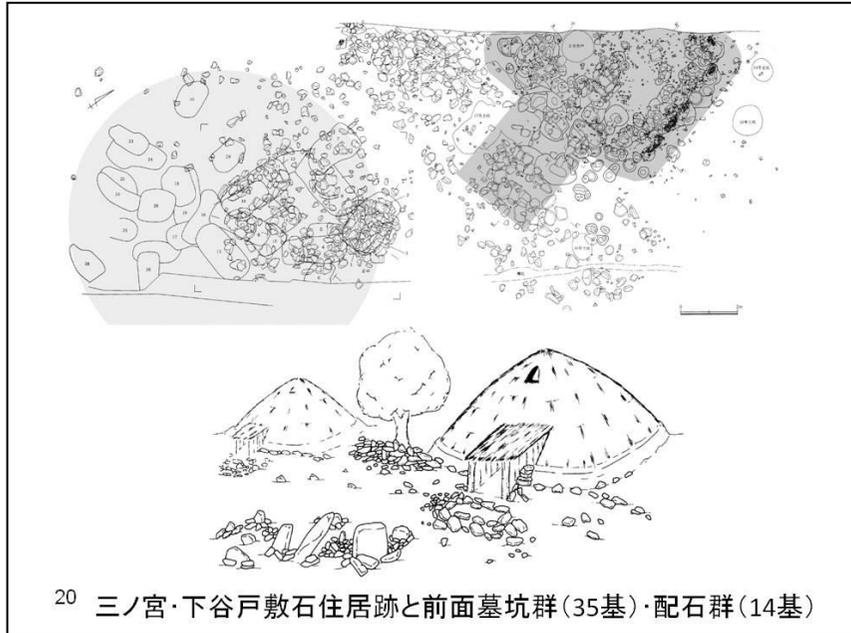
- ① 集落形態(環状集落・谷や台地中央をとりかこむ集落、住居に隣接して貝塚や墓を形成)
- ② 貝塚の形成(周囲の環境を利用した生活)  
→ 海辺の暮らし

**相違点**

- ① 貝塚に含まれる貝種・海洋動物  
→ 環境の違いによる生業の違い(仏向: 内湾、稲荷山: 外洋)







## はじめ沢下遺跡との 類似点と相違点

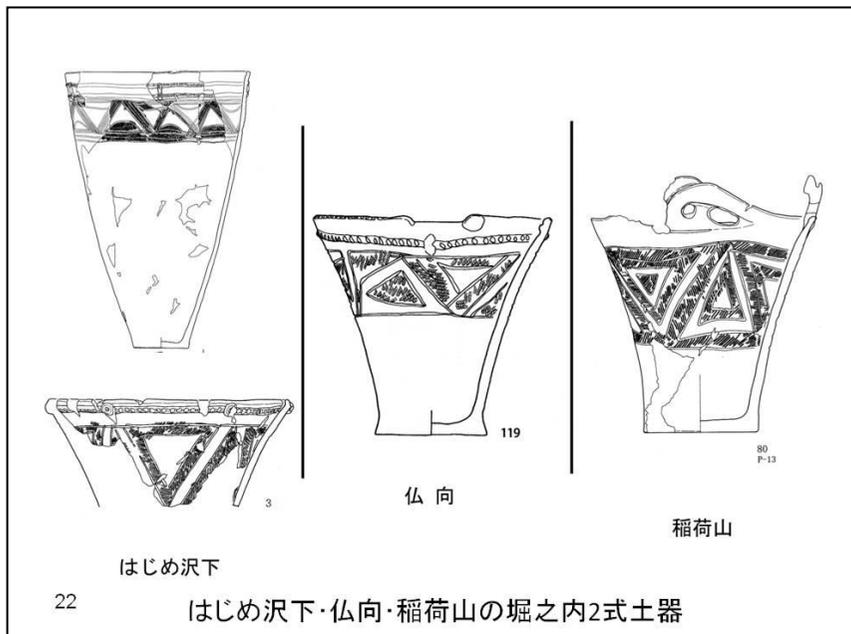
相違点

- ①生業
- ②集落形態(環状と列状)
- 海辺の暮らしと山の暮らし

類似点

- ①土器型式
- ②住居に隣接した墓
- 海と山の交流

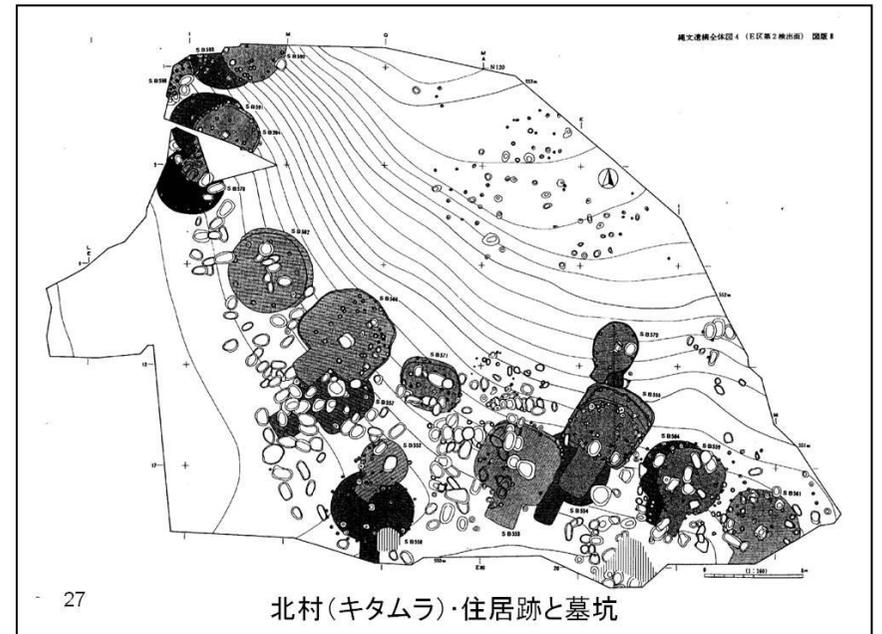
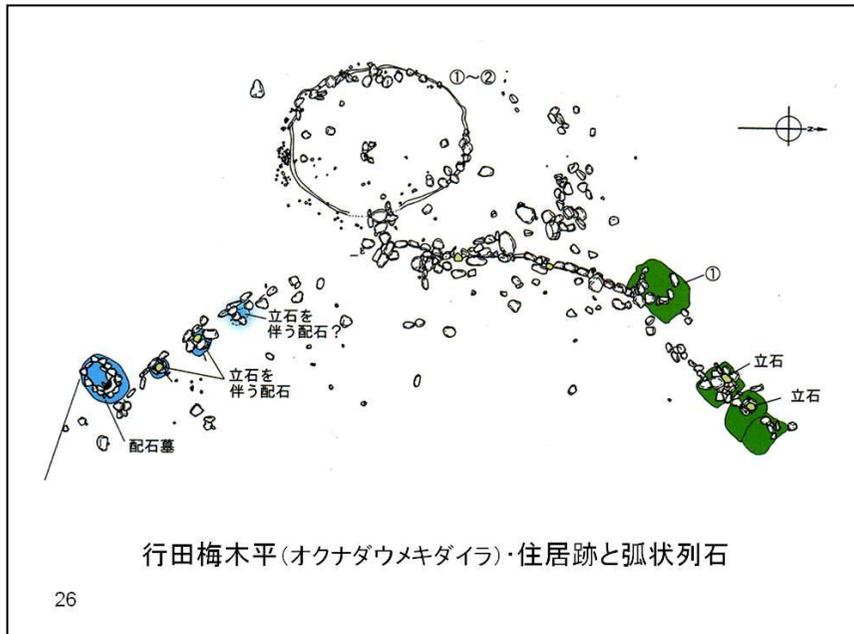
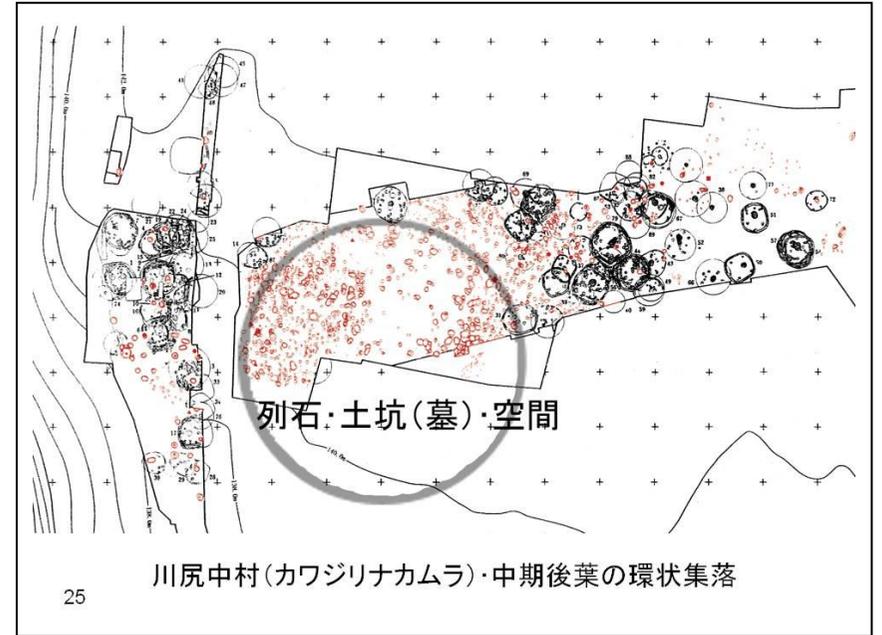
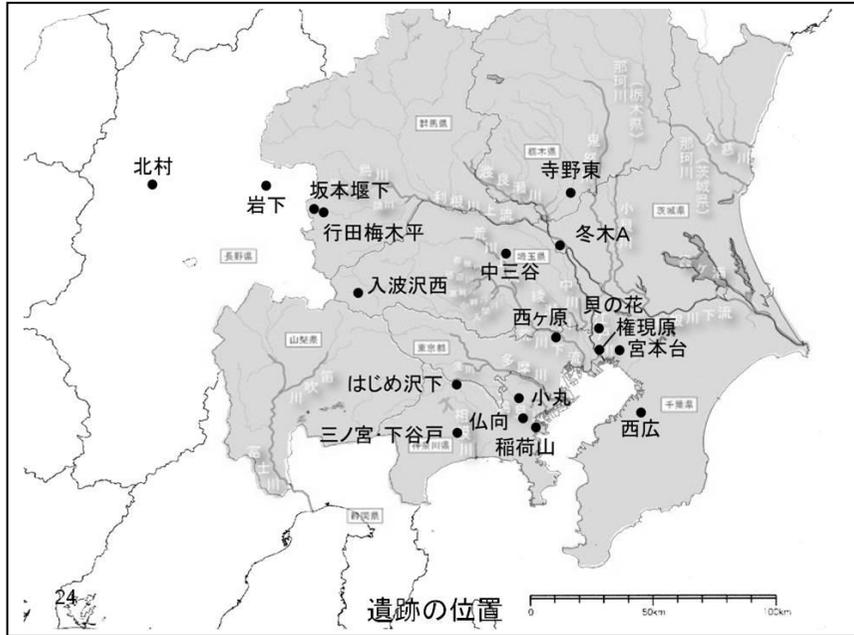
21

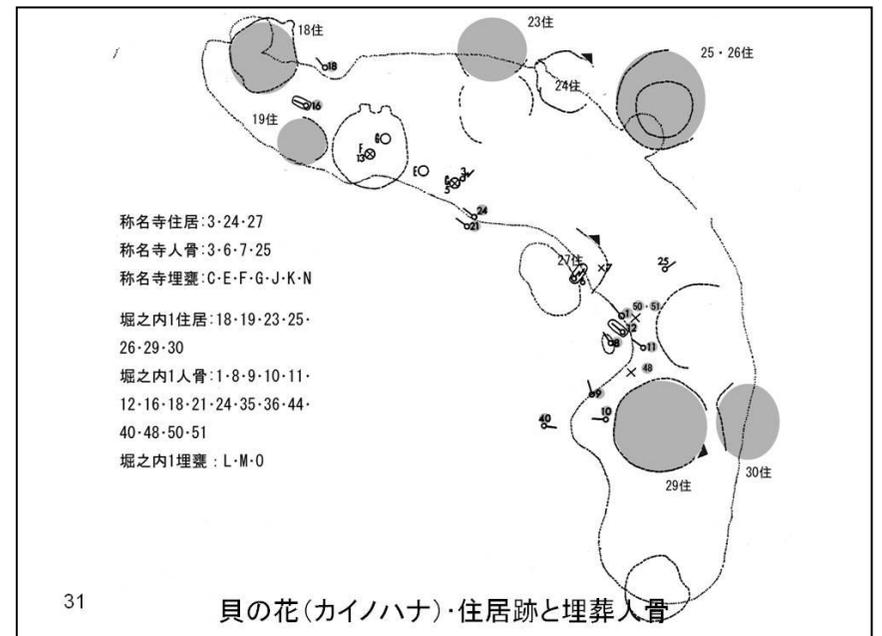
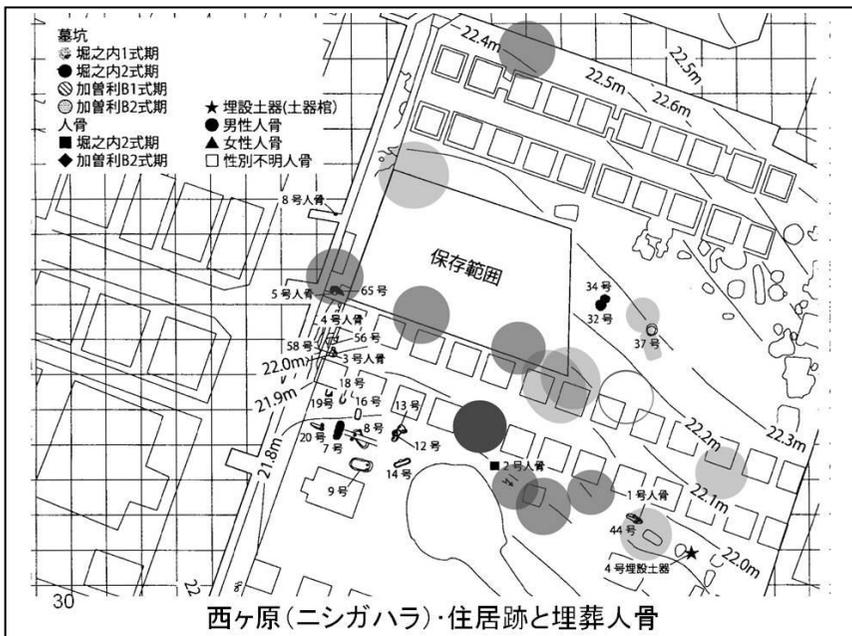
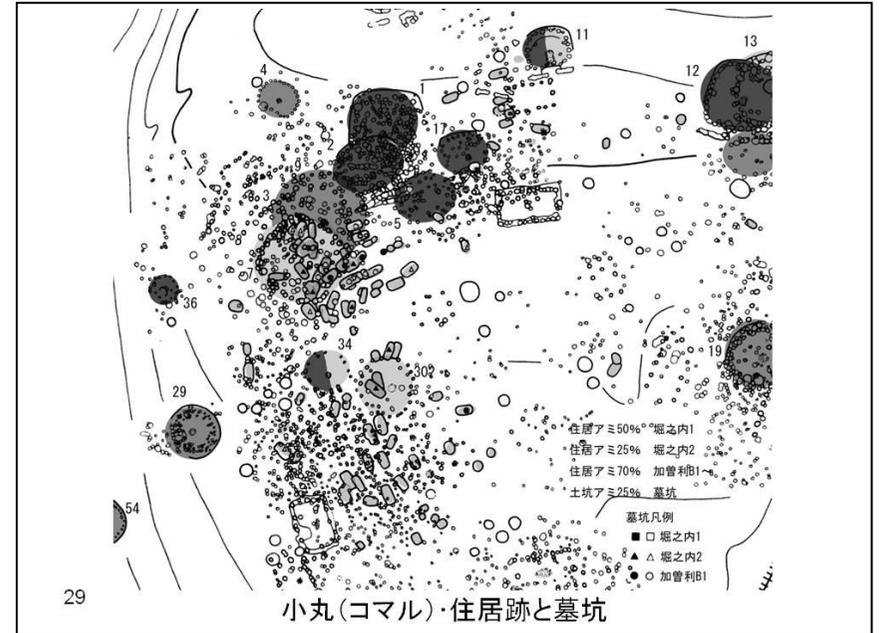
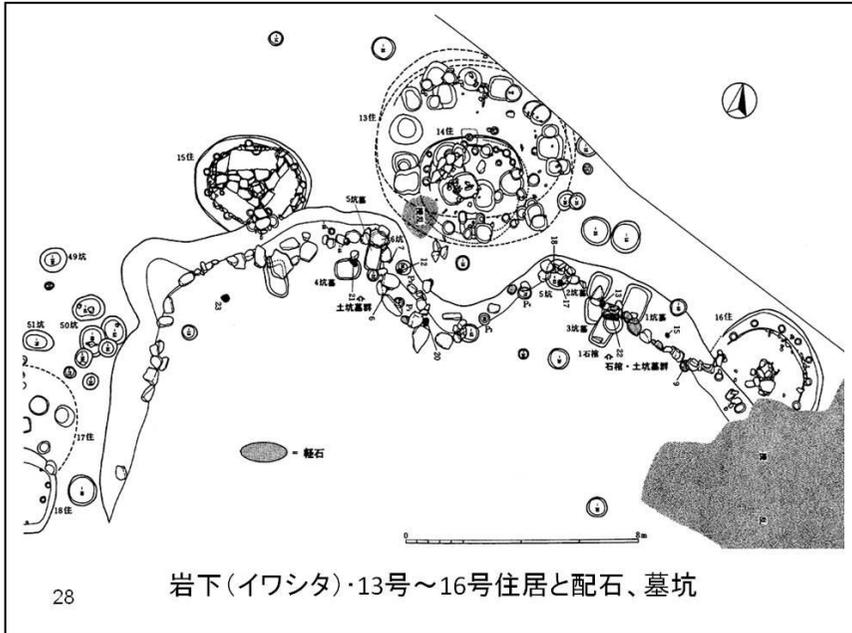


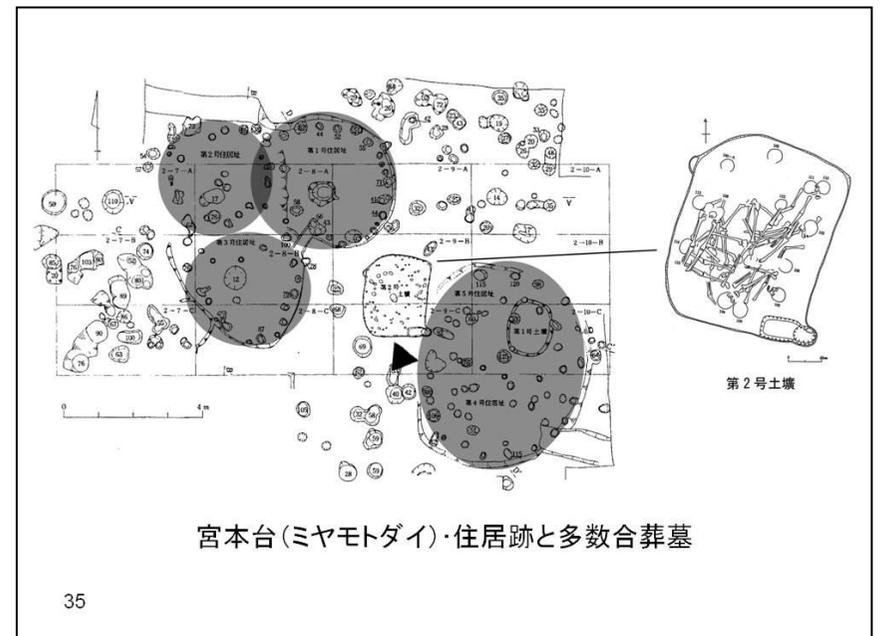
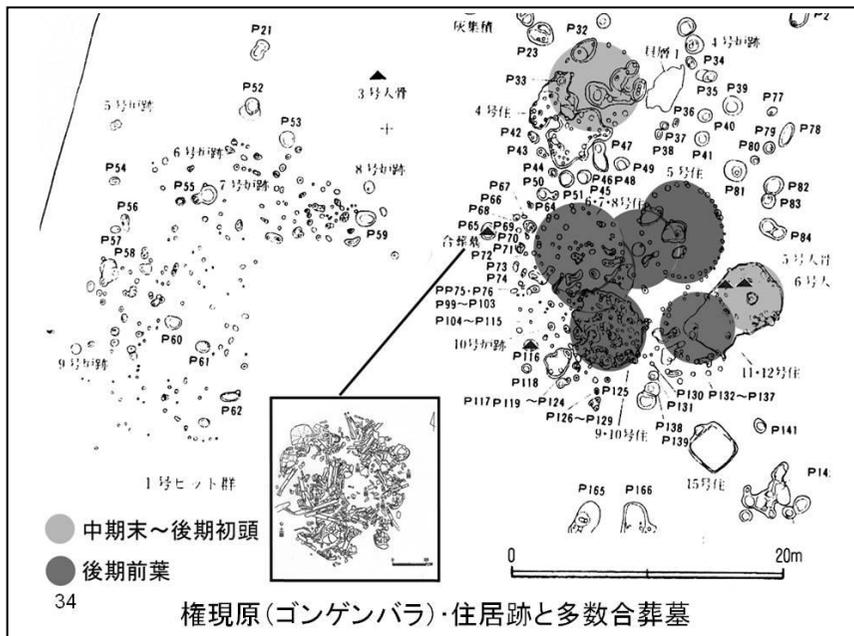
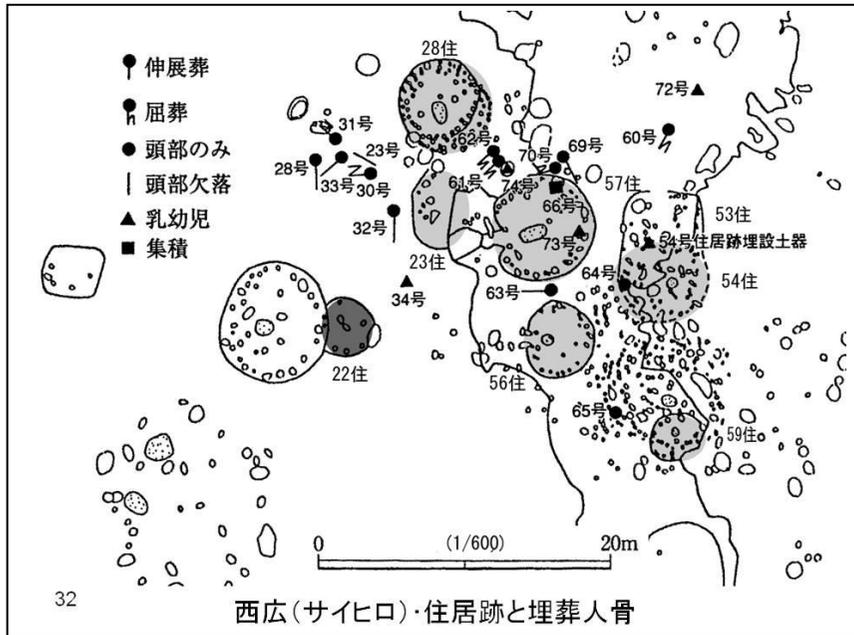
## 近くの違いと遠くの類似 その背後にあるもの

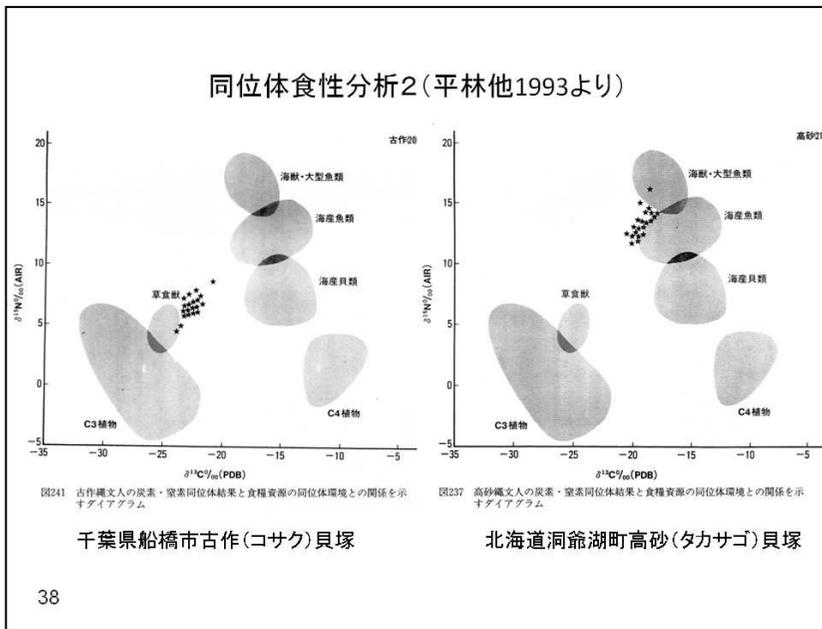
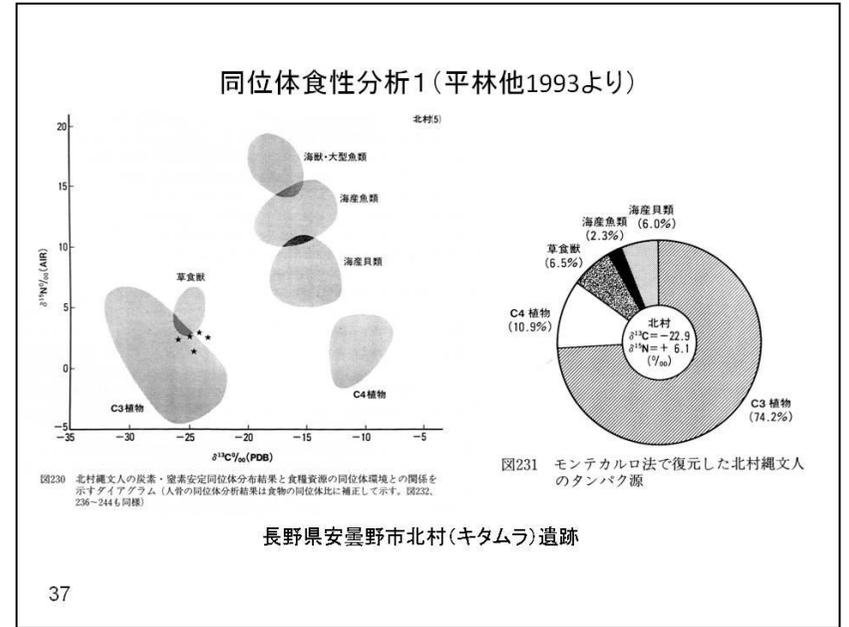
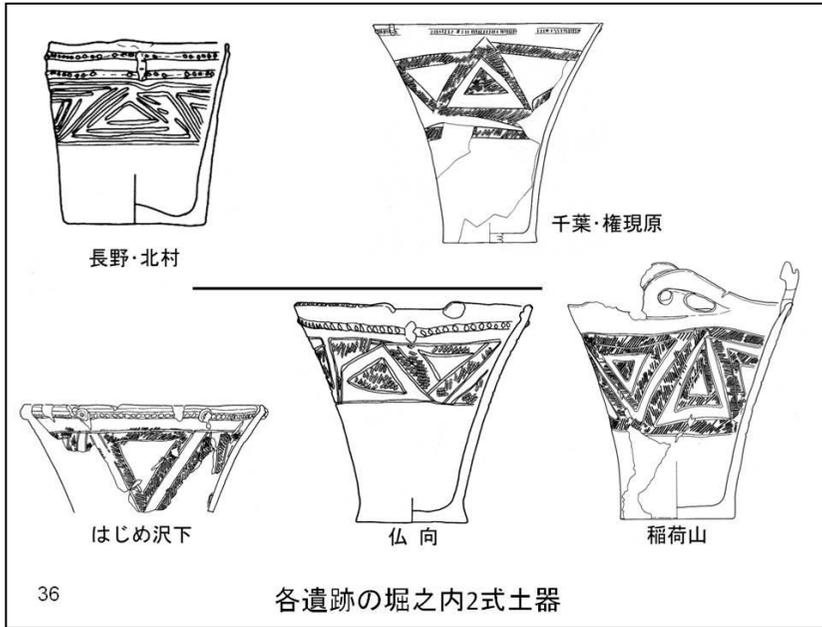
- ・近くの違い=仏向貝塚と稲荷山貝塚にみる生業の違い。  
→小さな地域ごとの適応
- ・遠くの類似=仏向・稲荷山貝塚とはじめ沢下遺跡の土器、  
山の集落形態は県境を越える。  
→海と山の交流、集落形態にみる広域交流

23









## 縄文時代後期における海と山の集落—違いと類似—

**相違点**

- ①住居配列・住居と墓の位置
- \* 山: 等高線に沿って展開、住居前面の墓域、配石遺構
- ②生業活動→環境に応じた暮らし

**類似点**

- ①住居に隣接して墓を形成)→死者とともに暮らす
- \* くり返し同じところに住居と墓を隣接してつくる
- ②土器型式→土器を介した交易・土器製作技法の共有
- \* タンパク質に偏りがないのは交易の証?

39